

第1回鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会

日時：令和5年7月25日（火） 14時00分～16時00分

場所：鹿児島市国際交流センター 1階 多目的ホール

会次第

- 1 委嘱状交付
- 2 開会のあいさつ
- 3 鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会について
- 4 会長選出
- 5 議事（これまでの経緯説明、意見交換）
- 6 閉会

15時～意見交換議事概要

（A委員：関係団体）

今のスタジアムの立地等については、利便性・回遊性が大事だと思うが、県と市の連携が課題。

県は総合体育館、市は北ふ頭にスタジアムを作るという計画案が出ている。

仮に、この案が通ったとして完成するとデザインもバラバラ、統一性がなく、ちぐはぐなものができるのではないかと危惧している。

今の県と市のやり取りを見ていると、これは県の土地や建物、そして鹿児島市は、これは鹿児島市の案件とか、そういうのが出てくるが、実際、私たち鹿児島県民・市民にとっては、そういったことは知らないし分からない。そもそも関係のない話であり、同じ鹿児島の議題である。

1度作ればその建物は何十年も残るので、それを考えると、もう少し県と市が同じテーブルで協議してほしいというのが感想。

鹿児島県民、市民からは、作ってよかったとか誇れるものを、そして他県から来た人に鹿児島に良いものができたね、と、羨ましがられるものをせっかくならデザインしてほしい。

県と市には限られた土地であるし、桜島の目の前の鹿児島の一等地なので、本港区エリアの再開発を一緒に進めてほしい。

（会長）

ただ今の県と市の連携について、事務局の方から何かあるか。

（事務局）

県の方々とは北ふ頭を表明した後も密に連携をとりながら取り組んでいきたいと思っている。

私たちの主戦場というか、いろいろ意見を言っていないといけないところは県の検討

委員会。そこも外部の方の会となっているので、その方たちの理解を得ていかなければならない。県に関しては、土地所有者、港湾計画を改訂する主体である。県と県の検討委員会の両方を見ながら、きちんと連絡調整、意見を言っていきながら、スタジアム実現について取り組んでいきたい。今のご意見を踏まえ、県の方とはきちんと対応していきたい。

(会長)

B委員何かあるか。

(B委員：関係団体)

商店街の関係者で参加させていただいている。

非常に本港区と天文館の商店街は近い関係がある。

このような場所に複合型スタジアムができるとなれば、回遊性も高まると期待している。

ただ、スタジアムにあまり見に来られない方たちが、どうしたら施設を利用し、見に来られるか、そういったことも非常に大事な部分であり、忘れてはならないと考えている。「多機能複合型スタジアム」という名前も入っているので、今後非常に期待したい。

(会長)

C委員何かあるか。

(C委員：関係団体)

私としても、回遊性がある利便性のある中心市街地でとてもいいと思う。

ただ、スタジアム1つ作るだけではなく、市はスタジアム、県は体育館というふうに考えていると思うので、やはり連携は必要。

桜島フェリーの場所は、特に土日は交通渋滞もあるので、全体的に地域一帯を見直す必要があると考えている。あの周辺が、活性化すれば天文館に人は流れる。前あった、住吉地区に何か作るとか、ホテルがあつたりしてもよい。トータル的な議論を県と市で今後進んでいけばよりよくなると考えている。

(会長)

B委員、C委員から、回遊性、あるいは多機能複合型というキーワードが出てきたが、若い学生の皆さん、多機能、複合型の部分で何か考えがあればお願いしたい。

(D委員：大学生)

立地としては北ふ頭がとてもいいと思っている。鹿児島駅からも近く、水族館もあるので、さらに人を集めて活気のある街にするためには、若者から高齢の方まで幅広く使えて愛される施設が作れたらよいと思う。託児所や保育園、若者が集えるカフェやスポーツセンター、

高齢者の人が使えるゴルフ場のような施設ができたらと思っており、1年中どんな世代でも利用できる鹿児島を代表する施設になればと思っている。

かんまちあでは、マルシェやイベントなどをよくしており、人が集っている場所と思っている。そのような施設になればよい。

(会長)

1年中にぎわえる、カフェであったりゴルフ場であったり発想が出てきた。

この仕事を引き受けるにあたって、学生にもいろいろな話を聞いた。

サッカースタジアムでしょ、と考えている学生が多いが、機能性、複合性もあるという話をすると学生の態度もだいぶ変わってくる。これはうちの大学だけでなく、授業を持っている大学の学生も同様の反応をする。今、D委員さんから出たような、機能性複合性を兼ね備えたスタジアムというのが今後のコンセプトになっていくといい。

(E委員：大学生)

まず、若者を含めてであるが、多機能複合型スタジアムが認知されていない、という点で、若者は情報に強いのにそれでも伝わっていないというのは発信が足りないと感じている。若者も含めてSNSも利活用しながら発信していくのが一番と思う。

北ふ頭にスタジアムを作るということになると、アクセスが非常にいい場所である。仮に郊外に作ったとして、スタジアムに行こうとなっても、時間や交通費がかかることでスタジアムに行こうという気持ちが薄れてしまうという危惧がある。

現状の北ふ頭で計画を進めると、若者という固定客が来ることによって、今後、未来を見据えていくうえで、若者が40代50代と年をとっても、鹿児島ユナイテッドFCやスタジアムのお客さんとして位置づけられると思う。

(会長)

アクセス性の話、多機能複合型についての情報発信の話、があったが、情報発信について事務局から何かあるか。

(事務局)

厳しいご意見をいただき感謝する。

インスタを作るなど情報発信をやってきたつもりではあるが、確かに若者からの反応が中々感じられないところである。

今年は学生を集めてワークショップを開き、若い方の意見を聞こうとしている。協議会と連携したいと考えており、若い方々の意見を積極的に取り入れていきたいと思っているので、今後頑張っていきたい。

(会長)

是非、発信するにあたってのお知恵をいただければと思う。

(F委員：大学生)

立地に関しては、桜島や錦江湾を望むところでとてもいいと思う。実際、大学の入学をきっかけに県外から来た学生も、桜島の爆発に驚いたり、桜島に関する事象に注目していることが多い。

桜島や錦江湾の自然が望める場所は、立地においてとてもいいと思う。

若者への周知を市や県にしてほしい。実際、私も協議会に参加するまでは、サッカースタジアムだけだと思っていた。

複合型施設であること、多機能であることを周知してもらえれば、若者が今、鹿児島においてほしい施設や存在してほしいものなどの意見を取り込めるのではないかと思う。

(会長)

桜島や錦江湾といった景観に関しても発言があった。

(G委員：専門家)

先ほど、令和4年のアンケート結果を伺ったが、その中で女性の返答率が2割ということで、私自身もよくわかっていなかったところもあるが、鹿児島市民・県民・県外の方からも理解を得るために、利用率を上げるためには、サッカー以外の使い方も非常に重要になってくる。

テキストマイニングというのが出ているが、これも8割が男性という中で興味を持った結果だと思うので、県民・市民の半数が女性、どうしたらこの施設にお金を使ってもらえるか、経済面でもきちんと検討していくべき。

(会長)

確かに女性の視点というキーワードで見ていくと、男性女性のサンプリングはこれでよかったか、テキストマイニングについては、様々な自由記述から出現するキーワードを抽出して関係性を文字の大きさや距離感で作る、関係性を距離感で示す便利なものであるが、これは性別で見るとどうなのかとか、年代別で見るとどうなのか、という視点で解析していくとまた新たな知見が表出すると思う。貴重な意見に感謝する。

(H委員：専門家)

15年くらい鹿児島のスポーツを取材している。複合型スタジアムというスポーツ以外の部分も大事だと思うが、鹿児島のスポーツはポテンシャルがあると考えている。

15年前、取材を始めたころは、鹿児島ユナイテッドFCもなく、他のプロスポーツもな

かったが、今いろんな形で頑張っている。スポーツとまちづくりは相性がいいと感じる。

先ほどE委員が遠くには行かないと言っていたが、自分も大学時代広島に住んでおり、新しいスタジアムが中心地に移動になっているが、当時、スタジアムが遠くて行かなかった。お金もかかり、興味のない人が来てくれないのは問題と思う。

利便性のある中心地にできるというのは大事。

スポーツは子供たちとか、将来、鹿児島を担う人たちの夢になると思う。そういう意味でも鹿児島の未来につながる場所になると思う。そういう意味では、大事な拠点になる。少し気になるのは広報の部分。市民・県民にもう少し丁寧な説明が必要という印象。知らないことに対してアレルギーが出てしまいがち。例えば去年ワールドカップの時に市長がこの広報活動をしていたが、そういった機会を増やすとか、積極的な説明の機会を増やすといいと思う。

鹿児島の未来につながるスタジアムを作してほしい。

(会長)

鹿児島のスポーツについて、立地や興味のない人をどう呼び込むか、未来につながるスタジアムということで、スタジアム像に迫る貴重な意見に感謝する。

サッカーの試合観戦をしたことがなかったので、今回の仕事を引き受けるにあたり鹿児島ユナイテッドFCの試合に2度ほど行ってみた。

スポンサーとして関わる人、ボランティア、障害を持った人、まったくサッカーを知らない人、様々なエンタメ性や経済効果があると感じたところ。つい先日の試合では、始球式で、特別支援学校の生徒が来て始球式をやっていた。試合を見たことのなかった人間としては、この効果は非常に大きいと思う。

費用対効果が議論されている中ではあるが、教育的価値という側面もあると感じている。

(I委員：関係団体)

前任地が佐賀で、J1のサガン鳥栖と関わりがあり、何度か試合を見に行った。鳥栖の町は7.5万人程度の人口だが、試合のある日は最大1.5万人のサポーターが来て非常にまちがにぎわう。

そういう観点で、鹿児島においても試合の時に来てもらえるよう、市内の中心部に近い、回遊性の高いところがいいと思う。

同じ九州の中では、長崎でも来年に長崎スタジアムシティがオープンするし、佐賀市内でも国スポに向けて、佐賀アリーナをまちの中心地近くに作っている。今後、地域の発展のためには外から人が来て消費していただくことが重要。

利便性の高い地域、施設と、鹿児島もキャンプや大会誘致の部分で競争し、勝っていく必要がある。そういう意味でも利便性の高い魅力ある施設を作っていくことは重要と思う。個別の立場では、会場の近くでホテルが取れたり、食事がたくさんあるなど、シャトルバスや

路線バス、市電で簡単に移動できたりすることが大事。そういった観点でも検討いただければ。

(会長)

佐賀や長崎における観客数や集客性、中心市街地にスタジアムを建設することによる地域の発展性についてご意見いただいた。

(J委員：専門家)

国や各地の地方自治体のスタジアム・アリーナ検討委員会の委員をこれまで務めてきた。当協議会にもその実績で入れていただいたのかと思う。推挙いただいた皆様、関係者の皆様に感謝する。

総論的に申し上げる。各委員からも北ふ頭の立地は素晴らしいというコメントを今日聞くことができた。地元の人々の総意が一番大切な意見であり、地元として北ふ頭を推挙するのであれば良いのではないかと。全国各地の案件を見てきた経験から、今後の議論の上でお願いがある。北ふ頭には地元の港湾事業者がいることを重々理解している。スタジアム整備にあたって、北ふ頭の本来的な機能を害することがないように港湾事業者との丁寧な議論を行って頂きたい。

多機能複合型といえば、商業施設や宿泊機能などが整備されることが多い。(民間もそういった提案を持ってくると思う。)

今回、委員の中に商店街の関係の方もおられると思うが、いざ多機能複合型スタジアム構想が具体化してきた時に、既存の事業者にとって、連携の取れる施設なのか、単にライバルになるのか、手を携えるのか、商売の議論になっていくと思うので、地元商店街の方々との議論も欠かせない。

また、どうしてもスタジアムができると、騒音や渋滞の問題が発生することも否めない。そこについては地元への説明会、これは事務局の皆様には負荷になると思うが、港湾、商業、地元への説明を丁寧にやっていただきたい。住民説明会を丁寧にやったところは、2017年にオープンした北九州市のスタジアムの事案だと思っている。住民とどう向き合ったかについては、北九州市にヒアリングに行くといいと思う。

最後は希望になるが、ウォーターフロントにスタジアムができるのは、都市景観に映えるものになると思っている。だからこそ、今後、スタジアムの整備費を行政も負担することになると思うが、都市景観に溶け込むスタジアムというところについても大切に考えて頂きたい。

(会長)

J委員に置かれては、スポーツ庁のスタジアム・アリーナワーキング策定の経験があり、交通インフラの整備、港湾関係者への丁寧な説明、住民説明会の開催など、場所が決定して

進んでいく場合には、事務局には丁寧な説明をお願いしたい。

(K委員：学識経験)

40年近く建築の設計に携わっている。その立場からお話したい。

建築を設計する際、実現可能性を大切にしている。今回の計画を拝見し、最初に考えないといけないのは、港湾計画とのすり合わせである。

ターミナルを解体することによって港湾計画がどうなるか、港湾計画に携わる部署の人たちとのすり合わせが大事と考える。

2番目に、この場所は埋め立て地であると思うが、地盤状況はどうか。地盤改良をするのか、地震の時の流動化現象は大丈夫なのか、そういったケーススタディが重要。

3番目に、交通量問題。何万人という方が来られた場合、車で来させるのか。手前に駐車場をつくってシャトルバスを出すのか。それによって全く違う。港湾を維持しながらスタジアムをつくるということは、サッカーの開催時は車両の数も大変多くなると思うが、物流、人流との関係性をどう考えるのか、緻密に交通量調査をする必要がある。橋が一本しかないのでボトルネックになりがちだが、車と人を分離させる、あるいは人が行く橋を作って人工地盤として歩かせるのか、そういったスタディが必要。

4番目に景観の問題。先ほど話もあったが、景観のシミュレーションはきちんと行っていないかなければならない。場合によっては計画とも関わってくるが、地盤から上に乗せるのではなく、グラウンド部分を掘り下げて、建物全体を下げる、という考え方も可能。

最後に、多機能と謳っているが、どういった機能を持たせるのか。1から4がクリアになってからではあると思うが、水族館との相乗効果をどう考えているか。水族館のお客さんはカップルや親子連れが多いと思うが、その調査も必要であり、その方たちを喜ばせる機能を持たせることができるか。バックステージは桜島に面していて、一等地であると思うが、例えばBBQ機能を持たせる、桜島を見ながらビアガーデンを楽しむ、という機能も考えられるし、桜島をバックにした結婚式などのイベントも考えられる。花火の特等席とか、様々な機能を持たせる、水族館のお客さんも喜ばせる、相乗効果を狙ったスタジアムの建設が必要。

(会長)

建築デザインの専門家として、実現可能性という大きなキーワードであったが、港湾計画だったり、交通・物流を考えたり、景観、様々なキーワードが上がって、調査の必要性について示唆する発言だったと思う。事務局として、これまでの調査結果を踏まえた、今後の調査計画について見通しがあるか。

(事務局)

行政の仕事のため、予算の制約もある中ではあるが、可能な限り情報を集め、ご指摘に応えられるよう、実現可能性を高められるように準備をしていきたい。今後も助言いただきました

い。

(L委員：関係団体)

私が所属している団体は、20歳から40歳までの青年が集っている団体で、本港区エリアについても、先輩方がサマーナイトの前身であるウォーターフロントフェスティバルを開催しており、非常に注目しているエリア。

ただ、我々としては様々な業種や考え方があるので、団体としてはスタジアムや本港区にどうすべきという提言は持ち合わせてはいない。

当協議会においては、中立的な立場として、行政の情報公開であったり、学生の3人も素晴らしい意見があったので、そういった方々と行政をつなぐ架け橋として、我々が立ち振る舞い、鹿児島の未来に、子供たちに何を残せるかという機会を作る団体であることから、行政や市民の皆様とつなぎ、みんなでスタジアムも含めた本港区について考える機会ができればと思う。今後も協力できれば。

(会長)

若者と行政をつなぐために今後とも助言をいただきたい。

(M委員：学識経験)

大学でキャリア教育や社会教育、生涯教育を担当し、学生からも様々な意見を聞いている立場から申し上げる。

1点目。北ふ頭でいいのかという話だが、平成28年度から前身の協議会で様々な議論がなされて、候補を絞り込んだ後に地権者と協議して整わなければ、他の候補地を検討するという方向性で進んできて、様々な検討がなされてきたことと、県の構想で駐車場案もみると、スタジアムが北ふ頭案となっている状況は非常に現実的と思う。この方向で具体化を検討することが有効と思う。県も具体案を聞く姿勢であるし、産業界からも「反対はしない」との発言があるのはその証左だと思う。

先日、県に寄せられた活用案のポスターセッションを拝見した。非常に夢のある案や現実的な案など、大変いい取り組みであったと思う。ここからもいい視点を取り入れながら、全体が崩れないようにしながら組み合わせて、本港区一帯を連動させてデザインできれば、周辺地域の相互発展になる。自然景観と都市景観が程よく両方あるのが鹿児島の魅力。鹿児島らしい象徴的な空間になると思う。

個人的に舞台や総合芸術、音楽も好きで、そういったことを引っ張って来れる可能性もあると思うし、建物もシドニーのオペラハウスのようにランドマーク的なものになれば、船がついてすぐの、海に面した桜島が望めるスタジアムとして海外にもウケると思う。

2点目、社会教育の観点では多機能複合型というのは時流であり、とても重要だと思う。ほかに「地域まるごと博物館」=エコミュゼ、エコミュージアムという考え方があるが、ス

スタジアム内にも多機能複合型で文化面でも機能するような役割を持たせ、かつ、他の周囲の社会教育施設、文化歴史の地域遺産要素も同居して共生した空間デザインができれば、都市型の非常に個性的なエコミュージアムになるといい。

桜島と都市景観が溶け込んだデザイン次第だと思う。

実際に鹿児島ユナイテッドFCの試合中に桜島が爆発している映像が圧巻で世界でもバズって話題になっていた。これは火山防災に強いトップシティ構想を掲げて学会も招致した鹿児島市の特性にもなるし、知覧のダークツーリズムと合わせて鹿児島の防災ツーリズムも試行していると思うので、目的型観光や教育観光にもいい影響となると思う。

3点目が、データ・事実に基づいた議論が必要と思う。鹿児島ユナイテッドFCが500社近くの県内外の協賛企業とつながるハブになっており、例えば新潟や柏など通常の観光旅行先としては鹿児島に来ない層から、アウェーであるからといって8,000人以上の観客を集めているということをごだけの方が知っていて議論しているか。私の印象では、Jリーグの初期のころのサッカーだけのイメージで語っている人が多いイメージ。SDGsにも力を入れているし、障害をお持ちの方とのつながりでは非常に強い取り組みをしている。全国でも2つのクラブしかない障害者チームも持っているし、障害者が1番の特等席で試合を見られるよう配慮している。錦江湾遠泳大会も運営しており、他にもこれまで社会教育的な意義のある非常に多くの地域貢献活動をされていると思うが、知られているかが不安。

ハードとしてサッカーだけをする箱モノではなく、多くの機能をハブとしてつないでいる、ソフトの機能の拠点になる。ほかにこれほど強いコンテンツが現在鹿児島にないと思う。陸上競技系の方ともすみわけができる。

また、鹿児島では学校体育や学校音楽でも有望なタレントが育つのに、エンターテインメントやカルチャーのプロは産業として育ちにくく、お金を出す文化がこれまで弱かった。鹿児島レブナイズや鹿児島ユナイテッドFCのおかげでエンタメの機運が高まりつつある。今を逃すと、若者が興味を持てるものを作れるのかが不安。学生のグループワークでは、鹿児島がどうあるべきか、どんな地域がいいか、何が足りないか、という議論の時に、どうしてもエンタメが足りないという議論がよく出る。若者はイメージを敏感にキャッチするので、鹿児島全体で変化を乗りこなそう、新たな動きをしようという機運を高めることができれば、若者の地元定着にも波及すると思う。

最後に、様々なデータに基づいた冷静な議論と、県と市の連携による全体のデザイン、港湾関係の方と交通関係の方との丁寧な調整、議論、市電の延伸と回遊性も含めた交通関係のスムーズな整備、人流・物流の検討も必要と思う。

また、稼働率については、事前事後の宿泊や他への波及効果も併せてよく検討すべきところ。地域社会がカルチャーの芽生えを封じることがないようにしていただければ。

(会長)

多機能複合型スタジアムを検討するにあたり、ランドマーク、象徴的な施設など、社会教

育の視点、事実に基づいた検討を進めたほうが良いという意見をいただいた。鹿児島ユナイテッドFCの持つ産業としての発展についても、データに基づいた議論が必要というのは同様に感じている。ここからはざっくばらんに意見交換ができるとよい。いかがか。

(事務局)

先ほどから周知が足りないと指摘をいただいております、なかなか自分の身内に伝えようとしても、サッカーでしょ、と言われる。そうではなく、多機能複合型で、1年中にぎわう施設を作ろうとしているんだと説明するのだが、具体で示すものもない。今後ワークショップで学生を集めて、どういった機能を持ったスタジアムにしたいかというグループワークをしようと思っている。多機能複合型という言葉聞いたときに、何をしようとしているかわかるか、学生さんにお伺いしたい。サッカーだけではないとニュアンス的にわかるようにしたいのだが、参考になるようなことがないか。

(E委員：大学生)

実際に鹿児島ユナイテッドFCを頻繁に見に行っている。

白波スタジアムでグルメなども楽しめる状況で、若者も多く観客として訪れているが、さらにエンタメを生むところとして、遊園地は施設的に難しいと思うが、例えば長崎のスタジアムのようにジップラインを作ってみて、子供が楽しめる場を作ってみるというのは、サッカーやラグビーなど、スポーツに興味がない人を取り込むきっかけにもなるし、エンターテインメントになりえると思う。

(I委員：関係団体)

北九州のスタジアムではないのだが、海沿いのところに関門海峡がある。そこもジップラインを通そうとしている。スタジアムを含めた賑わいづくりの計画が進んでいるところ。また、佐賀アリーナも、様々なエンターテインメントというか、施設自体をエンターテインメント性の高いものにして、沖縄のアリーナのような作りになっており興味のない人も1度来てもらって、試合+観戦する空間を楽しむといった取り組みをしている地域もあるので、紹介させていただく。

(J委員：専門家)

象徴となるネーミングをどうするか、というのは一つ大きいかとも思う。優秀な地域の皆さんやネーミングに優れた方にゆだねたいが、例えば日本ハムファイターズの野球場はエスコンフィールド、北海道ボールパーク、長崎はスタジアムシティと呼んでいる。

従ってネーミングに関しては、例えばスタジアムパークでもいいし、ウォータースポーツゾーンでもいいし、スポーツエンターテインメントパークでもいいのではないかと。ネーミングのところで、スポーツだけ、サッカーだけ、とするのが悩ましいのであれば、スポーツだ

けを連想させることに捉われないネーミングを、北ふ頭全体を対象につけるのは一案であると思う。

(会長)

人を集めるというキーワードから I 委員、J 委員から意見いただいた。人を集めることに関連して、今回、鹿児島ユナイテッド F C の前半戦が終わった中で、ホームで観戦する平均観客数はどのくらいかを調べたところ、5,200 人を超えている。全体の中で集客は 2 位。チームの状況は 3 位だが集客は 2 位となっている。チームの成績がいいから集客もいいのかと思い、2016 年から調べると、2016 年ではチーム順位は 7 位であったが集客は 1 位。ある一定層の支持層、ファンがいるというのも事実。今回スタジアムの競技場の集客率から平均集客数を除して、何パーセントの集客率があるかを調べると、J3 の全体の中で 2 番目に多い。また、先ほど出てきた北九州や長野、松本山雅など、スタジアムを保有しているチームよりも集客率はユナイテッドのほうが高い。なぜそんな状況が生まれるかを考え、鹿児島ユナイテッド F C のホームページを見ると、鹿児島をもっと一つにというスローガンのもとで、スポーツを通じた地域貢献がある。こういった活動の積み重ねが、ファンの獲得につながっていると推考している。

(B 委員：関係団体)

P 33 に出てくるテキストマイニングを行ったということで、単語が出てくるが、まだ何というのを語る段階ではないと思うが、一般の人から温泉という文字が大きく取り上げられているのに興味がある。エスコンフィールドもそういった機能がスタジアムの中に併設されている。スポーツと温泉というのが非常に面白い組み合わせ。

また、6 万トン級の国際クルーズ船が着岸できるような施設を持っている。諸外国からくる客船の着岸というのは商店街からも非常に魅力的。複合的な機能を持たせたものをどのようにとらえているかをお聞かせいただきたい。

(事務局)

私どももテキストマイニングによって、市民の方は温泉のイメージが強い、ということは令和 4 年度に実施した調査でまとめる段階では入っていなかったが、受け止めなければならない要素の一つだと思う。また、国際クルーズ船についても、スタジアムと連携して、受け入れ体制の強化という点も併せて考えていきたい。

(会長)

この点については港湾関係者、県との調整が課題になると考えているので、この辺りをしっかりやっていただきたい。

(会長)

時間も迫ってきているので、もし追加で意見があれば事務局から、書面で意見をお伺いするということなので、忌憚のない意見を伺えれば。

(会長)

第1回の会長としてファシリテートしたが、第2回以降は、事実に基づいた議論というキーワードも出てきたため、より多角的な視点でご意見を伺ったり、ディスカッションが深まるよう、白波スタジアムのホームゲームや北ふ頭の現地視察も事務局と検討したいがよいか。

(事務局)

関係団体と日程案等を調整し、委員の皆様には日程調整させていただく。

(会長)

意見がなければ、検討協議会の今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

想定では、8月から9月で第2回目、10月から11月にかけて第3回目と考えている。

県の検討委員会に意見を申し上げていきたいと考えているので、検討委員会も見据えて調整させていただきたい。

以上